

平成 30 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	大崎上島町立東野小学校
-----	-------------

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

- ・給食開始後5分間の「もぐもぐタイム」では「腰骨を立て足ピタで食べる」が、この時間を過ぎると無意識に元の姿勢になってしまう児童が多い。昨年度目標値60%（担任評価）は到達できなかった。
- ・家庭での調理体験が少ない児童がいる。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

- ・食器を持って食事をする子の割合80%（担任評価）
- ・学級園で栽培した野菜を使用し、料理を作る学年の割合100%

3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組1】（テーマ）食器(ご飯茶碗と汁椀)を持って食べる

姿勢は学習にも健康にも大きな影響を与える。そこで正しい姿勢で生活する習慣をつけるため、授業中と給食時間に、「腰骨を立て、足ピタをする」ように指導を継続している。また、昨年度の反省から児童に具体的にわかる「ご飯茶碗と汁椀を持って食べている児童の割合80%（担任評価）」を目標値として取組を行った。

保健体育委員の児童は給食時間に「給食一口メモ」を児童に知らせ、その中で「〇〇の茶碗と〇〇の椀を持って食べましょう。」と毎日、具体的に児童に意識させる声掛けをした。また、食器を持っていない児童には「がんばり週間」の結果をもとに養護教諭と共に個別指導を行い、自分ができていないところを確認させた。給食時間の個別指導も進め、その結果「毎日、食器を持って食べている児童」は5月では66%だったが、2月には75%と増加してきた。



【取組2】（テーマ）学級園で栽培した野菜を使用し、料理を作る

高学年になっても調理体験が少ない児童がいる。そこで自分の食事が作れるように各学年の食育推進計画に発達段階に応じた調理を計画している。今年度は学級園での栽培作物を生活科や家庭科、特別活動の時間と関連づけ、「何をどれに活用するか」を担当と確認し、年間計画を作成し実施していた。

ゴールを明確化することで、児童は目標を持ち、意欲的に植物を育て、収穫を行うことができた。児童はその学習を通して植物に親しみ、食べることの楽しさや食べ物の命をいただいていることへの感謝の気持ちを感じることができた。そして全学年で学級園の野菜を使用し料理を作ることができた。

また、年間計画や教務主任による指導・声掛けにより、学校全体が「植物を育てる・学級園を活用する」という雰囲気を作ることもできた。



【取組3】(テーマ) バランスの良い朝食をとっている児童を増やす

バランスの良い朝食をとることは生涯を通しての健康や成長・学習意欲にも関わっている。そこで、毎月の食育だよりには「簡単な朝食メニュー」の紹介をしている。しかし、1週間に5日以上バランスの良い朝食をとっている児童は、5月87.7%だった。そこで夏と冬の「食事チャレンジ」には簡単に朝食メニューになる料理をする項目を取り入れたり、保健指導の時間に「ひろしま給食100万食プロジェクト」の朝食メニューをもとに主食、主菜、副菜と栄養バランスについて指導を行ったりした。また、養護教諭と共に個別指導を行い、児童自身に自分のがんばる点を決めさせたり、健康相談で保護者への協力要請をしたりする中で、今まで栄養バランスの良い食事を意識していなかった児童に変化がみられるようになった。保護者も「今週は野菜もがんばって食べていきました。」とか「準備していたのに時間がなくて少ししか食べていけませんでした。」など朝食に注目してくださるようになってきた。その結果、1月には94.7%の児童が1週間に5日以上バランスの良い食事をとってくるようになった。

4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

今年度も児童生徒が、普段から「ひろしま給食100万食メニュー」を身近に感じるように、「ひろしま給食100万食メニュー」を必ず1品以上給食メニューに組み込むように町内で取組を進めた。

また、家庭科工作クラブでは「ひろしまおやつ」に入賞した「なめらかベリーベリー寒天」を学校で収穫したブルーベリーを使って作ることができた。

児童は、「100万食プロジェクト」のレシピを配付した後に、「家でひろしまトーストを作って食べたよ。」「3色カープ丼を作りたい。」と「ひろしま給食100万食プロジェクトメニュー」以外にも報告してくれるようになった。



5 取組に対する成果と課題

【成果】

- ・給食開始5分間黙って食べる「もぐもぐタイム」の間は「食器を持って食べる」ことを意識するようになってきた。また、家庭でも意識してもらうことができるようになってきた。
- ・「がんばり週間」の内容を利用して、「食器を持つ」「バランスの良い朝食をとる」など、児童が自分で目標を決め、取り組むようになってきた。

【課題】

- ・「食器(ご飯茶碗と汁椀)を持って食べている児童」担任評価は75%と目標値を達成することができなかった。食器を持つことは食事のマナーの基本なので引き続き、指導を進めていく必要がある。

6 今後の取組に向けた改善方策について

食事のマナーを守り、食器を持って食べることもバランスのよい朝食をとることも料理をすることも家庭の協力が不可欠である。児童に良い食習慣を身に付けさせるため、家庭を巻き込んだ課題を設定したり、食育だよりで簡単な料理を掲載したりしていく。また、保護者も含めた個別指導も引き続き行う。